

# グローバルヘルス戦略策定にかかわる 基本的考え方

- ▶ 我が国は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）を掲げ、グローバルヘルスについて国際的なリーダーシップを発揮

2000年九州・沖縄G8サミット

2008年洞爺湖G8サミット

2016年伊勢志摩G7サミット

2016年TICAD6

2017年UHCフォーラム

2019年G20財務大臣・保健大臣会合

2019年国連UHCハイレベル会合

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）とは、すべての人が生涯を通じて必要な時に基礎的な保健サービスを、負担可能な費用で受けられるとするもの



# 国際社会の動き

- ▶ COVID-19の結果、感染症の脅威と、保健システム強化の重要性について国際社会は再認識
- ▶ グローバルヘルスは、経済活動の基礎であり、国際社会のグローバル公共財
- ▶ 現在、グローバルヘルスのあり方について国際社会の議論が進行中
  - WHO・独立パネル→Global Health Threats Council創設提案
  - パンデミックの備えに関するパートナーシップ(英) → 100日以内のワクチン生産提案
  - G20・ハイレベル独立パネル→パンデミックの予防、備え、対応に向けた持続可能なファイナンスのあり方を検討。
  - パンデミック条約→WHO総会(11月)において議論



# 国際資金についての新しい潮流

- ▶ 官民連携基金（グローバル・ファンド、Gavi、CEPI、GFF、ユニットエイド等）
- ▶ ACT-アクセラレータ  
治療・ワクチン・診断等の公平なアクセス確保のための国際的枠組。  
COVAXはその一部であり、ワクチン供給を行う
- ▶ 新たな資金メカニズムの検討  
G20・ハイレベル独立パネルが、パンデミックの予防、備え、対応に向けた持続可能な資金調達システムを検討。



# 我が国がとるべき対応

- ▶ これまでの政策、提言をベースにする
  - 平和と健康のための基本方針（平成27年9月）
  - G7伊勢志摩ビジョン（平成28年5月）
  - ポスト・コロナのわが国の国際保健外交（JCIE、令和2年11月）
  - ポスト・コロナのわが国の国際保健外交に向けた提言（自民党政務調査会、令和2年12月）
  - グローバルヘルスを応援するビジネスリーダーによる提言（令和3年4月） 等
- ▶ 国際社会の要請及び世界の健康課題に対応して、リーダーシップをとる
- ▶ グローバルヘルスに対する我が国の貢献のための資金の検討
- ▶ 健康医療戦略における国際展開の取り組みと連携
- ▶ ワクチン、薬剤などの日本企業の研究開発と整合性
- ▶ 多様なステークホルダーとの連携
- ▶ パイロット国となる途上国との間で、ヘルス・パートナーシップを創設
- ▶ 国民から支持を得られるための努力

→健康危機への予防・準備・対応の要素を入れた、「強靱なUHC」



# 具体的論点（1）

（注）以下の論点は現時点での例示的なもの

- ▶ グローバル・ヘルス・システムについて
  - （1）WHOのあり方
  - （2）新たなガバナンス構造
  - （3）資金メカニズム
  - （4）既存の国際機関等への拠出のあり方
  - （5）パンデミック条約
  - （6）グローバルヘルスに関する国際的情報の集積
  - （7）貿易分野へのインプリケーション



# 具体的論点（2）

（注）以下の論点は現時点での例示的なもの

- ▶ 保健分野二国間ODA等について
  - （1）パイロット国の選定
  - （2）実施にあたっての国内、国外調整メカニズムの構築
  - （3）関係主体間（JICA、NGOなど）との連携
  - （4）民間企業との調整
  - （5）国際機関等との調整
- ▶ グローバルヘルスに対する我が国の貢献のための資金
- ▶ 人材育成
- ▶ 民間企業の国際展開・国際機関における調達への支援



# グローバルヘルス戦略策定の 今後の進め方

- ▶ 令和3年9月 骨格の策定
- ▶ 令和3年12月 中間とりまとめ
- ▶ 令和4年6月までに とりまとめ

